

景況実感調査(2021年8月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 8月は日当たりで横這いであった。自動車関連は半導体不足とコロナによるロックダウンの影響で、9月の需要は期待できない状況である。ただ、自動車メーカーは挽回生産する計画であるので、足下落ち着いた材料不足も、再び引き締まる予想である。
- ② 実働16日となり、対前月比4日減。東京オリンピック開催とコロナ感染者急増が重なり、非常事態宣言中の経済活動は大きな影響を受けた。市況は好転とされるも、メーカーからの入荷は遅れが解消されず、タイト感に変化なし。ただし、仮需の影響か、一時ほどのナイナイ感は薄れてきた。トヨタの集購価格2万円upはグッドニュースだ。日鉄も腹をくくった交渉だったろう。
- ③ 稼働22日、お盆もあり問い合わせも減った印象。相変わらず材料は少ないが、明細に明暗がある。秋に向けたの荷動きに不安が残る。
- ④ 高炉メーカーの枠カットは継続しており、下期はさらに厳しくなる。需要はさほど盛り上がっているとは言えないが、財源不足により注文を断るケースが増えていくものと思われる。
- ⑤ 稼働日数が少ない8月にしては紐付き等コイルの入荷も良好で、前年対比でも加工数量は15~20%増えた。9月以降、秋需に期待。
- ⑥ 高炉メーカーの値上げと供給量カットは下期も継続される。先が見えないので、在庫を大切に売っていきたい。需給が緩むとの憶測もあるようだが、そうとは思わない。
- ⑦ メーカーからの入荷は、凹凸はあるものの安定しているが、これから先が不安である。そして、更なる値上げも提示され、転稼ができるかと取引先の与信不安も抱える。

中板

- ① 8月の加工は稼働日数の減少もあり、前月比落ち込むとともに店売りの引合い・販売も低調に推移した。トヨタの部品調達難からグローバル減産が報じられ、今後の鋼板需給への影響が懸念されたが、さほどの影響は無いとの見通しに安堵したものの、むしろ同社の支給材価格2万円上げ報道は店売り価格との格差が大きく開いていることを顕在化させ、コイルセンターにとって今後解決すべき大きな課題となった。集中購買の伸展が予想される中、製造業サプライチェーンの健全な維持のためにも、この格差問題の早期解決を図って頂きたい。
- ② 大雨の影響で母材入荷が遅れ、夏季休暇以降は受注残に追われ加工は忙しく、タイトな状況は変わらない。3次店は足下の在庫が確保されていることもあり、以前の勢いは感じられない。東京製鉄が9月販売価格を酸洗鋼板以外は据え置きを発表となり、強気な値上げムードは落ち着き、相場も様子見となっている。価格もある程度の天井感が見えてきて、度重なる値上げ疲れもあるが、新しい値上げ玉も入荷してきているので、引き続き値上げを進めて行かなければならない。更なる値上げ交渉は厳しい段階に入ってきている。

厚板

- ① <全体感>建産機の良い需要環境は継続。下期は更なる増産も。造船は数年先までの仕事量を確保しつつあり、厚板の受給は逼迫している。背景として、中国の鉄鋼メーカー等海外主要メーカーの対日輸出量減少に加え、下期の国内メーカーの高炉大規模改修や設備休止の予定は変わることなく実施されることから、供給面での問題もある。<分野別>建機は海外の住宅・インフラ投資が下支えとなり好調で推移。ただし、中国市場の減速が影を落とす。建機メーカーの国内工場は継続してフル生産状態であるが、コロナ感染や調達品不足、協力会社の加工能力がネックとなり、計画に対する生産の遅れが見え始め、一部では減速も。店売りは、日本製鉄が9月引受け分より更に10円の値上げを発表。引き続き上昇圧力は強い。建機や造船の紐付きユーザーの需要は下期にさらに増加する見通しで、店売り分野の引受け数量制限や価格上乘せも一層強くなる見通し。
- ② 建設機械は引き続き好調。店売り関連は一部の鋼種、板厚に関して在庫が無いものもある。
- ③ 例年のことだが、8月は盆休みの関係で実稼働日数が少ないのが収益に影響した。今年例年よりも落ち込みが激しかったように思う。

一般開金鋼

- ① 問い合わせ、引合い、見積りは回復傾向にあるも、売上増に結び付いていない。8月後半からの荷動き緩慢化が気になる。目下の課題は売上増と仕入れ価格急騰で6月からの粗利益率軟化傾向への歯止めである。
- ② 建築現場はなかなか出て来なく、物量が増えない。出て来ても相見積りで値下げ競争が厳しくなっている。現場の職人さんは仕事が無く疲弊している。倒産も増えて来るのではないかと。

HI開金鋼

- ① 8月の荷動きについては7月比大幅減も、7月が比較的好調であったこと、盆休みがあったことを考えれば悲観的な数字ではない。9月のスタートも8月並みで大きく改善していないが、オリ・パラも終わり季節的に需要期に入ることもあり、需要面は心配していないが、高い仕入れ玉が入荷し、採算面は日に日に苦しい状況にあり、安値を回避してマージンの取れる市況形成だけが課題と思われる。
- ② 8月の倉出しは減少。前年同月比は微増。お盆もあり、稼働日、日当たりとも減少。10月以降の引合いも増えており、これから本格的な需要期に向けて再販単価の継続に努める。

異形棒鋼

- ① 8月は稼働が少なく低調。一年で最も悪かった。しかし、物件の動きはあり、昨年よりは良かった。9月にはもう一段値上げをする。
- ② オリ・パラ、夏季休業もあって日々の小口取引は大幅に減少。新規物件が少なく先行きは不安だが、メーカーの強気姿勢によって市況は強含みで維持されている。

平鋼

- ① 8月は稼働日の問題もあるが、前月より落ち込んだ。実需が増えてこない中で、これ以上の回復は難しい。足下はまだ少ないが、建築需要がこれから回復してくると期待している。まずは適正在庫と価格転嫁に注力していきたい。
- ② 8月盆休み明けから建築向けSPL(スプラインプレート)の注文が増え、9月中旬頃まで加工が忙しい状況が続く。厚板の品薄による案件の引合いや受注が8月中旬より増えている。今後、市場調査をしつつ平鋼のPRをしていきたい。

軽量形鋼

- ① お盆明けから店売りはかなり低調な商いだが、依然としてメーカーからの供給が厳しいままとなっている。
- ② 引き続き、原材料の入荷及び価格が不安定。出荷も減少してきた。
- ③ 最終製品への価格転嫁が難航している。

鋼管

- ① 鋼管の価格(市況)は20年前の3倍になった(2001年8月末比)。未経験の価格で販売しているが、この値段のパイプで作られた製品や建造物の価格が上がるのか、上がらないのかを注視せざるを得ない。
- ② 例年の8月に比べて荷動きは良く、日割り出荷量が2ヵ月連続で上昇。価格上昇とともに売上高はコロナ以前の水準に回復しつつある。品種により市中在庫切れが増えている。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車、建機、工作機械向けなど底堅く、一般産機は業種によりまだら。荷動きは、紐付き好調も店売りは盛り上がりを欠く。市中在庫は、メーカーの納期遅れが常態化しており、漸減傾向。価格は、メーカーの追加値上げを受け、9月以降1万円の値上げに着手の状況。

磨棒鋼

- ① 自動車向け紐付き材については、部品供給、半導体不足の影響による減産により、9月以降大幅な調整局面を迎える模様。早期に回復との話もあるが、不確定要素も多く安心はできない。店売りは、製鋼メーカーからの価格改定要請を受けて、本格的な値上げアナウンスを開始。出荷に関しては、駆け込みも無く、低位のまま推移している。

その他

<鉄線>

- ① 11月以降にあと10円の値上げが鉄線業界にありそうだ。どれだけ仮需があるかはまだ分からないが・・・。

<鉄スクラップ>

- ① スクラップ相場は高値調整局面。今後も国内メーカーは増産するようなので、スクラップ需要の高い状況は続きそう。

<金属表面処理>

- ① 8月は稼働日が少なかったため、加工量、売上高ともに減少したが、状況としては悪くなかった。9月はスポットの大口案件が少ないように思えるので、小口案件でも重塗装やマスキング、切断などの付加価値を付けることにより売上を確保したい。